不登校の対応や未然防止の取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学２年生で、中学校入学当初から不登校が続いている。集団では、緊張してしまい、生活することが難しい状態である。また、自分の考えを表出することが苦手で、コミュニケーションの苦手さを感じている状況である。決められた日にはある程度登校し、学校で１時間程度過ごしているという現状である。

具体的な取組

○会話の工夫

実態把握と、生徒と関係を構築していくために会話を中心に対応を進めた。当該生徒は、考えの表出が苦手であるため、クローズドクエスチョンを中心に生徒の話を聞き、オープンクエスチョンも入れながらコミュニケーションを図った。表出できないのか、時間があれば表出できるのかを見極めながら指導を行った。

○進路指導の充実

当該生徒は、全日制高校に進学したい希望があるため、高校について一緒に調べる学習を行った。また、全日制以外にも定時制や通信制などの高校があることや、学校によって様々な特色があることを学び、進路を考えるきっかけとした。

○不登校対策の共有

不登校対応加配教員が不登校対策に関する研修に参加し、各学校や教育支援センター、フリースクール等の実践事例について理解するとともに、自校の教職員に対し情報提供を行った。また、研修で得た知識を自校に生かすことができないかを検討し、不登校対応に生かした。

○校内支援委員会での情報共有

不登校対応加配教員を校内委員会のメンバーとし、生徒情報の共有を行った。生徒情報の共有とともに不登校の対応策や予防策を考え、実践につなげた。一部の教員で対応するのではなく、学校全体で組織的に対応していくことを重視している。

成果

当該生徒の昨年度の登校日数は 24 日だったが、今年度は、10 月末現在で 28 日と、登校日数を増やすことができた。また、登校が増えたことで、生徒の状況をより正確に把握することができ、現状や今後の手だてについて具体的に考えることにつながった。

課題

自分の考えを表出することや、他者との関わり方、集団の中で生活するために必要な力を付けていく必要がある。

校内登校支援教室での対応について

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学２年生であり、小学校６年生の１学期から登校しぶりが始まり、徐々に不登校となった。不登校の要因は、精神的不安定によるものである。当該生徒は、中学校入学後一か月ほどは登校できており、部活動にも入部して参加するなど順調な様子だったが、それ以降学校に登校することができなくなっている。

具体的な取組

○支援会議の活用

週１回行われる校内特別支援委員会において、校内別室における支援の報告を随時行った。支援内容、生徒の様子など、きめ細かに報告することによって管理職、特別支援教育コーディネーター、各学年担当、ＳＣ、ＳＳＷ等の各関係機関とも共通理解を図ることができ、次の支援へとつながった。

○校内支援教室における学習支援

生徒が校内別室に登校した際は、基本的に「自学自習」とした。「自学自習」に取り組む際は、考査に向けての学習を行うなど、自分の目標をもてるようにした。学習者用端末を活用した個別学習も行った。

○不登校対策チームの設置

校内の生活指導部に、不登校対応チームを設置し、組織的な対応を行った。不登校の生徒や登校しぶりの傾向のある生徒がいた際には、不登校対応チームを中心に協議し、学校全体で組織的に対応を行うことによって、学年間で現状を把握するようにした。

○個に応じた支援の充実

生徒の状態に応じて、会話やコミュニケーションゲームをするなど、柔軟な対応を行うようにした。

また、生徒の登校機会を見逃さず、在籍学級の担任や学年の教員とのつながりをつくれるようにした。

成果

当該生徒は、校内別室での対応により、登校回数が週１日から週２日に増えた。

年間の登校日数も昨年度より増加し、来年度に向けて、在籍学級の教室への復帰を考え始めている。

課題

来年度以降、校内別室を継続するための体制を整え、不登校支援の継続と充実を図ることが課題である。